

道徳判断の心理学的基礎

柴田学園大学 健康栄養学科

小林 琢哉

TEL 0172-33-2289 FAX 0172-33-2486

e-mail: t-kobayashi@shibata.ac.jp

キーワード

道徳性 論理的推論 直観的判断 社会的直観主義

専門分野は教育心理学の中で道徳性心理学という領域です。

他の人が置かれた状況に共感したり、社会における公正さを求めたりする心理は、道徳性と呼ばれるものがその背景にあると考えられています。では、その道徳判断は、どのような過程を経て行われているのでしょうか。

これまでの心理学における道徳判断の研究では、人が意識して論理的に考え判断することで道徳判断が行われるとされてきました。こうした考え方に立つ理論を提唱する立場の心理学者の代表的なものは、ピアジェ、コールバーグといった人たちがいます。この立場に立つ人たちは、道徳的な判断は論理的に考える力に基づいていて、したがって道徳性の発達も論理的に考える力の発達に伴って生じるのだと考えています。また、論理的な考え方に基づいた道徳判断の仕方は、文化による差を超えた普遍性を持つと想定しています

一方で、社会的直観主義モデルと呼ばれる考え方の研究者は、多くの場合において人は自らが行った善悪の判断をうまく言葉で説明できない事を指摘しています。しかも、理由を論理的に説明できないような判断を人はなかなか変えようとしなない傾向があります。こうした事実から、社会的直観主義の立場に立つ心理学者は、「道徳判断は、周囲の状況や出来事を知覚した直後に生じる直観によって動いていて、論理的思考はその判断を正当化するための後付けとして働いている」と主張しています。

このような道徳判断の過程について、意思決定や推論といった心理学の他分野における研究成果を参照しながら検討を進めています。